

Web版OPACにおける図書書誌情報の表示方法について

山梨医科大学附属図書館

渡邊文代

1. はじめに

学術情報センターでは、昭和61年度から全国の大学図書館等を対象として目録所在情報サービスを開始した。

各大学図書館はこのサービスに順次参加し、その目録システムであるNACSIS-CATを利用することによってローカルシステム上の目録業務を行うようになった。山梨医科大学附属図書館においても、昭和63年4月に図書館システムを導入し、目録データをすべて電算化し、カード目録は廃止された。書誌データはNACSIS-CATに登録すると同時にダウンロードし、ローカルデータとして利用している。

目録をデータ化し各項目を検索用語として活用できるようになったことで、カード目録時代には提供できなかったアクセス方法が可能になった。一方、簡易な条件の設定で検索できるため結果数が多くなることもあり、その中から本当に必要なデータを見つけ出すことに時間がかからないようにするための工夫が必要になった。一つには検索条件をどのように設定するか等の検索方法におけるものと、もう一つには一覧表示を見やすくするといった表示方法における工夫が考えられる。

このレポートでは後者の表示方法における工夫に主眼を置き、各図書館における現状を調査し、さまざまな事例からよりよい表示方法を探していきたい。

2. シリーズか固有のタイトルか

日頃図書の目録を登録する業務を行っていると、教官が図書購入申込書の書名欄に書くデータと実際に蔵書データとして登録されるデータがまったく異なることに遭遇する。申込書にはシリーズ名、シリーズの番号、個々の書名といった順に書かれているが、目録は個々の書名、シリーズ名という順に記述される。なぜこのようなことが起きるのであろうか。先日の読売新聞に次のような記述があった¹⁾。「結論を云えば、わたしたち日本人はどうやら、大から小へと視点を移動させて、云って見れば、ズームイン思考でものごとを処理しているようなものです。」ここでは、名前や住所、短歌を例に説明されていて、これがそのまま書名にも適用できるかどうかは確実ではない。しかし、図書購入申込書は新刊案内を見ながら書かれていると思われるが、個々の書名を先に書くよりはシリーズ名から始めたほうが相手にわかってもらいやすいという意識があるはずである。

さて、利用者は引用文献に記載のあった資料を探すことも多い。この記述方法としては、国内では「科学技術情報流通技術基準」の中の「参考文献の書き方」²⁾が採用されていることが多い。そこでは、図書の場合、「書名は標題紙に記載されているとおりに記述する」

とある。シリーズ名はその全体を参照する場合はそれを書名とするが、そうでなければシリーズ名と巻数は丸括弧に入れて記述するのみである。この基準にしたがって記述されシリーズ全体が参照されているものでない限り、利用者は個々の書名から検索ができるはずである。が、実際はそうでないことがある。完全な書名がわからず、ときにはシリーズ名のみを情報として持っている場合もある。また、総合目録データベースでは「固有のタイトル」をもつ単位を単行書誌単位として目録を作成しているため、その情報をそのままの単位で提供すれば、利用者が書名として持っている情報と一致しない場合がある。これらの場合に利用者は自分が求めている図書を見つけられずにいることが多い。

現在、ILLの他大学への依頼件数が年々増加している状況を考えると、できるだけ利用者自身が学内にあるのか否かを容易に検索できる環境をつくる必要がある。そうすれば利用者の時間も節約でき、図書館員の業務も減ることによってよりよいサービスを提供できることにつながる。

以上、いろいろとシリーズについて気がついたことを挙げてきた。利用者がキーワードとしてシリーズ名を入力した場合にはそのシリーズをひとまとまりとして表示するほうがよいのではないかと考えた。目録をカードで提供していたころは、階層のある書誌についてはどの位の階層をとるかは各図書館に委ねられていた。現在、共通の規則にしたがって総合目録データベースを構築し、各館の目録もその基準にそって表現され、多くの場合固有のタイトルを使っている。が、それがシリーズとして調べられたものの結果表示であるならば、シリーズの書誌つまり親書誌、そのすぐ下位の書誌という順で表示していくほうが、その構造がよくわかると思われる。また固有のタイトルを単位としたことによって生じた利用者目録作成者との間の「ずれ」をなくすることができるであろう。以上の点を中心として、次に各図書館のOPACで実際に行われている表示方法を検討していく。

3 . Web版OPACにおける表示方法の現状

3 . 1 国立大学附属図書館におけるWeb版OPAC

まず、各図書館が公開しているWeb版OPACの状況を調査し、(表1)にまとめてみた。

国立大学図書館協議会に加盟している大学のうち大学院大学などを除く95大学を対象に調査した。その中でホームページを開設している大学が94、またWeb版OPACを公開している大学が88、親書誌タイトルを検索語として検索し、その結果一覧に親書誌レコードの表示があるものが34大学あった。その34大学を詳しく見ていくと結果一覧に親書誌レコードがあるのだが、子書誌レコードとの区別がつかず見つけにくいものと、親書誌レコードが一覧のなかでも上位に表示され子書誌レコードとは区別されているものがあった。この場合、親書誌と子書誌は区別されているほうが見やすい表示と思われる。総合目録データベースでは書誌構造リンクを必ず形成し、親書誌を検索した場合にはまずその親書誌がヒットする。しかし同じタイトルをもつほかの子書誌が存在した場合は混在して一覧表示される。そしてヒットした親書誌レコードにリンクしている子書誌レコードの一覧を表示することができる。Webcatもこのリンクによってレコード表示を行っている。しかし、大学でそのリンク形成を生かしている数は半数以下であった。

(表1)

| 調査数 | HP | OPAC | 親書誌 | 一覧タイトル |
|-----|------|------|------|---------------|
| 95 | 無 1 | | | |
| | 有 94 | 無 6 | | |
| | | 有 88 | 無 54 | |
| | | | 有 34 | リンクなし 3 |
| | | | | 子書誌 19 |
| | | | | (中位) - 子書誌 12 |

平成11年9月30日現在
調査数：国立大学附属図書館
HP：ホームページの開設
OPAC：Web版OPACの公開
親書誌：親書誌タイトルを検索語としたときに簡易表示一覧に表示があるか
(不調のため確認できないものは「無」に含む)
一覧タイトル：親書誌の詳細表示で表示される子書誌タイトルの記載方法

次に親書誌レコードの詳細を表示したときにそれにリンクされている子書誌の一覧をどう表示するかであるが、2階層の書誌構造をもつレコードの場合はそれほど差異はないが、番号等で表示順序を工夫しているものとそうでないもので見やすさに差が出ている。

また3階層以上の書誌構造をもつレコードの場合であるが、ここで明らかに違いが出てきた。子書誌レコードで一覧を形成しているもの(19大学)と中位の書誌から記述したレコードで一覧を形成しているもの(12大学)の2種類があった。

(例1) 子書誌レコードで一覧を形成している場合

| |
|--|
| 岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集 |
| 遺伝子とタンパク質 / 上代淑人, 村松正實編集-岩波書店-1998-(岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集,1 . 分子・細胞の生物学 ブンシ・サイボウノセイブツガク;1) |
| 細胞増殖とがん / 黒木登志夫, 澁谷正史編集-岩波書店-1999-(岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集,10) |
| 老化と動脈硬化 / 北徹, 藤原美定編集-岩波書店-1999-(岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集,12) |
| 人体のなりたち / 坂井建夫, 佐藤達夫編集-岩波書店-1998-(岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集,3) |
| 生体の調節システム / 荻原俊男, 垂井清一郎編-岩波書店-1999-(岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集,4) |
| 生殖と発生 / 森崇英, 山村研一編集-岩波書店-1999-(岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集,5) |
| ニューロン / 久野宗, 三品昌美編集-岩波書店-1998-(岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集,6 . 脳・神経の科学 ノウシンケイノカガク;1) |
| 免疫と血液の科学 / 西川伸一,本庶佑編集-岩波書店-1999-(岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男 [ほか] 編集,8) |

(例2) 中位の書誌から記述したレコードで一覧を形成している場合

岩波講座現代医学の基礎 / 伊藤正男[ほか]編集. - 東京 : 岩波書店

1. 分子・細胞の生物学 ; 1 ; 遺伝子とタンパク質 / 上代淑人, 村松正實編集
- 3 ; 人体のなりたち / 坂井建雄, 佐藤達夫編集
- 4 ; 生体の調節システム / 荻原俊男, 垂井清一郎編
- 5 ; 生殖と発生 / 森崇英, 山村研一編集
6. 脳・神経の科学 ; 1 ; ニューロン / 久野宗, 三品昌美編集
- 8 ; 免疫と血液の科学 / 西川伸一, 本庶佑編集
- 10 ; 細胞増殖とがん / 黒木登志夫, 澁谷正史編集
- 12 ; 老化と動脈硬化 / 北徹, 藤原美定編集

(例1)にはWebcatも当てはまる。これはまだ固有のタイトルを意識していた一覧表示と考えられる。一方(例2)においては階層の構造がわかりやすい表示になっている。特に下線部を見てみると、ほかの巻は2階層の書誌構造をもち、すぐに子書誌レコードのタイトルが表示されている。下線部が引かれている巻は3階層を成しているが、中位の書誌の番号順、記述も中位から順に、大から小へという流れで行うことで階層が一つ多いことがわかりやすく、この叢書の構成を把握しやすくしている。

3.2 タイトル関連情報が本タイトルとして独立する事例

次に、ある図書に続編が発行され、正、続ともに固有のタイトルをもっていた場合を考えてみよう。この場合、すでに存在する「正」の本タイトルを親書誌タイトルとし、タイトル関連情報に入っていたデータが子書誌タイトルとして独立する。これはあくまでも目録作成者の都合であり、利用者にはわかりづらく両者の間にずれが生じやすい。こういった場合も検索者はタイトルに親書誌タイトルを入力してくるであろう。こういう事例の場合も叢書類の場合と同じくその構造をわかりやすく表示することによってこの「ずれ」を小さくするもしくはなくすることができる。

(例3) 子書誌のみで表示される場合

- 1 この実践法が脳と体を生き生きさせる / 春山茂雄著. -- サンマーク出版. -- (脳内革命 / 春山茂雄著 ; 2)
- 2 脳から出るホルモンが生き方を変える / 春山茂雄著. -- サンマーク出版, 1995.6. -- (脳内革命 / 春山茂雄著 ; [1])

(例4) 親書誌レコードからリンクしている場合

脳内革命 / 春山茂雄著. -- サンマーク出版.

[1]: 脳から出るホルモンが生き方を変える / 春山茂雄著

2: この実践法が脳と体を生き生きさせる / 春山茂雄著

この場合、それほど多くの子書誌が存在することはあまりないと考えられる。書名を入れて検索すると、たまたま続巻が出ていたことに気づくことになる。3.1で紹介したような事例ほど複雑な階層をとることもない。が、キーワードに親書誌タイトルを入れて検索

索した結果として（例3）のような表示が出てきたときに各データの最後まで見ないことにはなぜ2件表示されたのかわからない。

（例4）のように親書誌レコードからリンクされた一覧表示を提示されれば同じ書名で2巻目が発行されたことがわかりやすい。（例3）が初めの結果一覧で表示されるのに比べてこの（例4）では親書誌レコードの詳細を表示することによって子書誌レコードにたどり着くことができるので一段階余分に表示させることになるが、Web上で動いているOPACではリンク先に移動することはそれほど苦にならないと考える。それよりも表示方法としてよい方を選ぶことに重点を置いたほうが賢明であろう。

4. まとめ

以上、2階層以上の書誌構造をもつ書誌レコードの表示方法を見てきた。もっと複雑なものも考慮しなければならないであろうが、それは今後の課題にとどめておきたい。

それぞれの図書館にとってどのようなWeb版OPACを提供するのがよいのか。たとえば、検索方法に工夫する、リンクを減らしてなるべく早い段階で子書誌に行き着く、一手間増えてもリンクを利用した表示方法にするなどそれぞれの要求に見合った方法を模索していくしかない。

そのなかで現在、2階層以上の書誌構造をもつ書誌レコードの表示方法について自分なりにもっともよい方法として提案したいのは次のような項目を満たすものとする。

- ・ 検索キーに親書誌タイトルを入力した場合には親書誌レコードを結果一覧に表示し、子書誌レコードとリンクさせる。
- ・ その結果一覧において親書誌レコードと子書誌レコードの両方が存在する場合はその区別をはっきりとつける。
- ・ 親書誌レコードの詳細表示における子書誌レコード一覧は親書誌についている番号順、タイトル表示はすぐ下位のタイトル、最後に子書誌のタイトルとする。（表2）

（表2）

| |
|---|
| （親書誌レコード） |
| 書名 / 著者名 . . . 出版地 : 出版社 |
| （子書誌レコード一覧 : 下線の番号の順） |
| <u>親書誌の番号等</u> ; (. 中位書誌の書名 ; その番号等) 子書誌の書名 / 著者名 . 出版年 |
| " ; (" ; ") " / " . " |
| 以下繰り返し |

現在図書館においてはホームページを開設し、OPACをWebで提供することもサービスの一つになってきている。それは利用者の幅が広がることも意味している。そうした状況のなかで図書館はいままで蓄積してきたデータをいかに加工して提供するかによってサービスを向上させることもできる。またそこに各図書館の特徴を出すこともできるであろう。

しかし、そのためにはデータが規則正しく入力されていることが前提条件とされる。今後
も共同で総合目録データベースを構築していく限り、お互いその品質に責任をもって行
わなければならないのは言うまでもないことである。

最後に、長期にわたる研修中いろいろとサポートしてくださった図書館スタッフの皆様
ならびに学術情報センターの皆様に感謝申し上げたいと思います。

参考文献

- 1) 井上ひさし．にほん語観察ノート 第24ページ 姓が先か名が先か． 読売新聞
1999年9月12日 日曜版 4．
- 2) 科学技術庁科学技術振興局編．科学技術情報流通技術基準 参考文献の書き方．
http://www.jst.go.jp/SIST/sist02/sist02_m.htm．